久喜市の在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題

・各委員の皆様が今後の取り組むべき内容（連携強化など）や検討すべきと思うこと（★太枠内）をご記入ください。

1）入退院支援の目的

・入退院の際に、医療機関、介護事業所等が情報共有・協働を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や検討すべきこと（★）
入院・退院支援	・R４年入退院支援ルール作成	・R５入退院支援ルールの講演 ・関係機関に配布（医療機関、薬局、居宅介護支援事業所、訪問看護事業所、老人福祉施設、地域包括支援センター等に配布）	・退院前カンファレンスの声かけ、実施 ・訪問看護、福祉用具の事業所等の参加による必要事項や注意事項の共有ができる	・例えば 適切なサービスが導入され、病気の再憎悪・再入院を繰り返す ・退院から再入院までの期間が短い ・ケアマネジャーとの連携を図る ・自分の診療所のルールづくり 日頃の業務で忙殺されるため、システムづくりが課題 ・自分が受けられるサービスには何があるか知っておく ・誰に相談していいのか相談窓口を知る ・退院時カンファレンスに薬剤師を呼んでほしい ・薬剤部分の診療情報提供書がほしい 会議で作成した情報共有シートの活用ができるようになってほしい ・入院・退院したことをケアマネに情報提供してほしい

2)日常の療養支援の目的

・医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や 検討すべきこと(★)
日常の療養支援	・MCS の利用の仕方の講義、講演 ・医療・介護相談窓口として在宅医療サポートセンターの周知 ・誤嚥性肺炎と歯科の講演 ・「後見人制度と身元保証人の違い、意思決定支援の基本的な考え方」の講演	・相談窓口の周知 ・パンフレットの作成・ホームページで周知 ・訪問診療時の適切な情報共有について ・情報共有シートの作成・普及	・訪問介護や訪問看護、訪問診療等の連携 ・介護保険制度の周知	・MCS について再度学習したい、またアカウントを作って実際に体験してみたい。 ・いつでもわかるようにホームページ等で紹介してほしい ・情報共有は重要 ・MCSも ICT も有用なツール 誰もが使えるようになるために、トレーニングが必要

3)急変時の対応の目的

・医療・介護・消防(救急)が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思を尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や検討すべきこと(★)
急変時の対応	・ACP 普及啓発講座 ・救急隊との情報共有の講演(在宅で看取りの予定であっても救急車を呼んでしまう場合)	・年1回、ACP 講座の開催 ・エンディングノートの配布、ホームページの掲載 ・あんしんカードの周知 ・急変時の延命・心肺蘇生の希望の有無	・かかりつけ医。往診医、訪問診療医、訪問看護等との連携 ・一時的なショートスティの利用の検討(ケアマネジャーに依頼) ・救急搬送に関する関係機関との連携の推進	・急変時の本人の意向確認(元気時から) ・急変時の本人の意向の共有方法 ・急変時の関係者との連絡方法 ・いざとなったら救急車を呼んでしまうので、地道に説明が必要 ・元気なうちから意思表示をしていく ・蘇生の方法について啓発活動(市民、医療従事者、介護従事者など)が必要

4)看取りの目的

・地域の住民が、在宅で看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人(意思が示せない場合は、家族)と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や 検討すべきこと(★)
看取り	H29年、看取りと終末期の対応について研修会を開催 H30年、訪問看護の利用と入退院時の支援で研修会を開催	ACP の普及 エンディングノートの普及	・救急搬送に関する関係機関との連携の推進 (見取りに関する認識・理解の程度) ・人生の最終段階における意思が十分に共有されている状態か ・看取りの場所について(病院や自宅以外に介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホームなどの施設ではどんな方法なのか?)	・看取りの場所 ・看取りの場所について、自宅で迎えるための不安要因を聞き、取り除く ・医師・看護師が連携し、多職種で聞き取りをしながら在宅の看取りを進めていく ・看取りとして介護がどこまで支援できるのか、医療職(訪問診療の先生等)と連携をとって、どこまで支援できるのかが一番難しい問題 ・本人、家族、関わる人たちみんなが理解しながら満足していく看取りをしていく作業が大切 ・老人ホームや介護施設の種類について、医療・介護関係者や市民を対象に講義をしてもよいのではないか

5)認知症の対応の目的

・認知症の人が住み慣れた地域で希望に沿った生活ができ、自らの意向が十分に尊重されるよう、必要な医療・介護の提供が可能となる体制整備を推進する。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や検討すべきこと(★)
認知症の対応	・令和6年度エーザイとの共催で「MCI や認知症を知ろう」の市民公開講座 ・意思決定支援ガイドラインの講演 ・認知症サポーター養成講座の実施(認知症の理解、支援の協力と早期発見・対策)	・認知症ケアパス地域サポートガイドブックの周知	【課題】 ・医療機関の受診を拒否している事例 ・介護保険等のサービスの利用を拒否している事例 ・医療面の問題を抱えているものの、問診や診察をしないと、医療機関やどの診療科を受診すればよいかわからない事例 ・退院後の在宅療養環境の確認を	・医療につなげたくてもつながらない方については、認知症初期集中支援チームの周知やつながりやすいようなアプローチが必要 ・認知機能が残っているうちに、相談につなげたい ・地域でお世話している民生委員や区長、近所の方など、専門職がいても離れずにつながりが保たれていてほしい ・「おかしい」と感じたときに、どういう風に取り組んでいったらよいかが今後の課題

6)感染症発生時の対応の目的

・感染症発生時に、必要な医療・介護の提供が可能となる体制整備を推進するために、医療・介護連携を推進する。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や 検討すべきこと(★)
感染症発生時の対応	令和4年度研修会 テーマ;「新型コロナウイルス感染症が起こした在宅医療と介護の危機」	「医療」「服薬」「介護」「生活」の部分から問題点と対応、解決策についてグループワークを実施	今後検討する予定 ・協力医療機関や地域で身近な医療機関との連携 ・介護施設・事業所における感染症発生時の事業継続ガイドライン(厚生労働省老健局) ・保健所等との連携	・今後の備えとして、相談できる場所、医療や介護がここなら入れるよという最新情報がいつでもわかるようにしておきたい ・新しい情報が入ったら、対応・対策を考えて準備しておく必要がある (コロナ、インフルなどのウイルス系) ・関係機関(事業所、行政、保健所、医師会など)との連携

7)災害時対応の目的

・災害が発生した場合であっても、地域において可能な限り、必要な医療・介護の提供が可能となる体制整備を推進するために、医療・介護連携を推進する。

テーマ	実施内容	普及啓発	連携強化	今後の取り組むべき内容や検討すべきこと(★)
災害時の対応	現在未実施		・	・どのような対応をしていったらよいのか、現状の整理をしていく ・災害の種類によっても取り組むべき内容は変わるが検討しておく ・体が動かない人、動きにくい人の支援、避難場所など対応を考えていく、1 つではない ・災害時の救護所の場所を知る ・安否確認 ・人工呼吸器など